

セッション4：分科会：「ESD for 2030」を見据えたESD推進のあり方

総合学科の特性を生かした 高等学校におけるESD for 2030



筑波大学附属坂戸高等学校 農業科 建元喜寿

学校農場を中心とした活動展開



2ha以上の学校農場



20年かけて造成した学校の森

ESDで「育てたい人間像」



1次情報を大切にする・当事者としてまわりを巻き込みながら自ら動く

活動例：子供食堂・食育・販売実践



カリキュラムに位置付けた活動
→活動を特別なイベント化しない

なんのための地域連携かという問い



近隣のスーパーで、高校生が栽培した野菜を高校生が販売

- ・ 高校生の学びのためであることを常に忘れず
- ・ そして、関わる人たちみんなにとって有意義であるように

無理のない連携を模索していく大切さ



- ESD自体の持続可能性を常に考える
- 関わる人たちみんなが楽しめる活動に

日本の地域×インドネシアの地域



日本の高校生のアイデアとインドネシアの地域商品のコラボ



日本の大豆とインドネシアの技術でできたテンペ

これまでにない組み合わせを実現していく
→SDGs 達成に向けたイノベーションが起こるのでは！

高校生国際ESDシンポジウム@Tokyo



- 2030年にむけて、国・地域を越えてつながっていくことが当たり前になっていく。そういう時代に高校生は生きていく
 - 高等学校が、地域ESD拠点に入っていることの意義